

令和7年度 学校自己評価(校務分掌)

評価 A:十分達成できている B:達成できている C:おおむね達成できている D:やや不十分 E:不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策	
各教科等の指導	日常生活・遊び	教材データベースを活用したり、貸出簿への記入を周知し、使用しているものを整理する。 遊びの指導・日常生活の指導について、段階別の指導内容を検討し、内容をまとめる。	・貸出簿を分かりやすく掲示し、教材教具の所在の確認や整理整頓をやすくしたり、学期ごとに職員に周知する。 ・年間2回、点検を行い、老朽化している教材・教具に関しては、処分を検討する。 ・遊びの指導・日常生活の指導について、普段行っている内容や項目を話し合い、個別の指導計画に活用できるような目標を話し合い、データにまとめて、職員に周知する。	①⑫	B	・教材教具の整理整頓、老朽化した遊具などを選別し、安全に留意した。また日常生活の指導について係で話し合い、段階別に目標を設定できた。	・プレイルーム入り口左側の部屋に古い教材が多すぎるために把握したり、管理することが難しい部分があった。さらに選別する必要があると考えている。
	生活単元学習	学習指導要領や要素表をもとに、年間指導計画の見直しを行う。 各学部の校外学習の行き先や目標などの系統性を図る。	・学習指導要領や要素表をチェックしたものをと、年間指導計画に足りない内容を入れる具体的な時期や活動内容を検討する。 ・各学部の校外学習を実施する意義や行き先、目標を確認し、系統性のある校外学習を検討する。	③⑤	B	・年間指導計画の新しい様式を作成した。 ・各学部で要素表の確認と校外学習の行き先の検討を行った。	・引き続き各学部で系統性のある年間指導計画を作成し、年度末ごとに要素表を用いて見直しをしていく。
	作業学習	学習指導要領を参考にして、年間指導計画の様式の見直しを行う。 作成した様式で、次年度の年間指導計画を作成する。	・年間指導計画に記載する内容を検討する。(内容、目標、3観点での書き方など) ・様式が決まったら、各班で年間指導計画を作成してもらう。	⑥⑧⑯	B	・年計の様式を中・高で統一した。 ・学習指導要領の「内容」を年計に入れた。	・定期的な年計の見直しと様式の検討。 ・作業学習は通年で同じ内容で活動することがほとんどのため、年計にある単元名の記載の仕方を検討する。
	総合的な学習(探求)の時間	生活単元学習との住み分けを考え、学年・学部ごとの学習内容や系統性について整理し、系統表を作成する。	・生活単元学習の年間指導計画と比較し、行事等の位置づけを考える。その後、学部・学年ごとの学習の系統性について検討し、系統表を作成する。	⑤⑥	B	・年間指導計画の学習内容について中・高で見直しを行った。 ・各学部における行事や交流の確認と検討を行った。	・今後も、校外学習や交流活動などの行事の位置づけや、学部・学年ごとの学習の系統性について定期的に見直ししていく。
	職業	学習指導要領を参考にして、教科「職業」と「作業」の明確な差異化を図り、職業教育としての意味や目的を明確にする。	・職業教育の指導内容について、教科等係会を設けて段階的にまとめる。 ①昨年度修正をした年間指導計画を基に行う授業内容の検討 ②授業の結果を基に、年間指導計画の見直しを行う。	⑫⑰	B	・昨年度修正した年間計画を基に授業内容を検討し、実施した。 ・実施した授業を基に、再度年間指導計画の見直しを行った。	・第3期現場実習の在り方が変わったため、再度年間計画を修正する必要がある。 ・昨年度同様に作業学習と職業科を区別した授業内容を検討していく必要がある。
	情報	学習指導要領を基に、教科「情報」としての指導内容の調整とつながりのチェックを行い、情報としての意味や目的を明確にする。	・情報教育の指導内容の調整とつながりについて、教科等係会にてまとめる。 ①学習指導要領を参考に、年間指導計画にある情報教育としての必要な内容を選別、検討していく。 ②要素表や他校の「情報教育」を参考に、本校の情報における年間指導計画を検討する。	⑥⑨⑯	B	・情報科としての指導内容の整理を行い、各学年等の系統性について、確認を行った。確認後は、年間指導計画に反映し、次年度の計画を行った。	・学習活動に必要な情報収集、学習内容の見直し。 ・年度末の年間指導計画の見直し。
	国語・外国語	教材データベースを活用したり、使用しているものを整理したりする。 各学年のグループごとの題材や内容を比較し、学部ごとの系統性を図る。 学習指導要領をもとに、年間指導計画の見直しを行う。 評価規準の作成を行う。	・年2回程度、教材教具の整理整頓を行う。 ・漢字能力検定に積極的に参加してもらえよう、各学部で連携して取り組み、検定について周知する。 ・各学部ごとに年間指導計画の学習内容と学習指導要領を確認し、系統性がある授業ができるよう検討する。	⑤⑥	B	・教材の管理や整理を計画的に進めた。さらに、学習指導要領に基づく新様式の年間指導計画の作成にも積極的に取り組んだ。学部間で協力しながら検定情報を周知し運営できた。	・共通のルールづくりや定期的な見直しを行い、誰もが使いやすい管理体制を整える。
	算数・数学	各学部の年間指導計画の見直しや内容の系統性の検討を行う。必要とされる備品や教材の検討を行う。 定期的な備品整理と貸し出し簿活用により、備品の紛失を防ぐ。	・各学部ごとに年間指導計画の学習内容と学習指導要領を確認し、系統性がある授業ができるよう検討する。 ・必要とされる備品や教材を各学年ごとに確認し、不足分は補充できるように検討する。 ・各学期1回程度、保管場所の整理をし、貸し出し簿の確認をする。また、老朽化している教材・教具に関しては、処分を検討する。	⑧⑰	B	・学習指導要領を確認し、系統性がある授業ができるよう来年度の年間指導計画を作成した。 ・必要とされる備品や教材を各学年ごとに確認し、不足分は補充できるようにした。補充は無かった。	・今年度作成した年間指導計画の手直しが必要と思われる。 ・備品に関して、継続して管理を続けていく。
	音楽	楽器及び教材の管理とデータベースの整備を行い、教材の有効活用を促す。 学習指導要領をもとに、年間指導計画の見直しを行う。	・楽器及び教材の保管場所の整理整頓を行い、有効活用できるようにする。 ・教材データベースの作成、更新を行うとともに、Teams等での周知を行い有効活用を促す。 ・年間指導計画を3観点の見方から整理し、評価規準の確認をする。	⑨⑯⑰	B	・データベースの共有と年計の見直しを行った。	・教材データベースができているが、有効活用ができるように継続した周知が必要。
図工・美術	教材のデータベースを活用し、校内にある用具を有効に活用しながら、学習指導要領に基づいて各学年の年間指導計画を見直す。	・データベースと各学年の年間指導計画を照らし合わせ、使用学年ごとに教材を分類・保管する。 ・学習指導要領に基づいた上で、校内にある用具を有効活用できるように単元を検討し、年間指導計画を見直す。	⑫⑬	B	・教材を管理し、整理することができた。学習指導要領を基にした新様式の年間指導計画の作成に取り組むことができた。	・破損や在庫が少ない教材を確認し、使用頻度や学習内容を踏まえ、計画的に補充を行う。今後は、各学年の年間指導計画を係内で確認し、系統性がある授業になるよう検討を行っていく。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策	
各教科等の指導	保健 体育	系統性のとれた年間指導計画の見直し・作成を行う。 児童生徒の体力向上及び、運動量の増加を促す学習の推進。 体育倉庫及び体育器具の整理を行う。	・各学部・学年の年間指導計画を見直し、体育分野保健分野それぞれで学びの重複がないように整理する。 ・体力測定や基礎運動に関する掲示物を体育館に掲示し、児童生徒の運動や記録への興味・関心を引き出す。 ・各学期末に体育器具の整理整頓を行う。	⑬	B	・年間指導計画の見直し、及び備品教材の整理を行った。	・新しい年計に取り扱う教材の補充。体育館及びグラウンドの整備が必要。
	家庭	安全や衛生面に配慮した授業を行うことができるように、備品の管理を行う。 系統性をもたせた年間指導計画の見直しを行う。	・年間2回の備品チェックを行う。 ・網羅されていない内容について係の中で検討し、系統性を考慮しながら見直しを行う。	③⑤⑥	B	・備品消耗品の管理及び廃棄、年間指導計画の見直しを実施した。	・調理室が使いやすく、かつ安全に使用できるように、設備や用具を整える必要がある。検討のために具体的な予算要望を図りたい。
	道徳	年間指導計画に基づいて各学年で授業を実践し、内容や題材の精選を図る。	・授業で取り扱った題材・資料などをチームスの教材教具に各学年ごとに保管し、次年度につなげられるようにするとともに、全職員で閲覧・使用できるようにしておく。 ・係会で、授業実践の見直しを行う。	⑤⑥	B	・年間指導計画に沿って各学年授業実践を行った。使用した題材・資料などはTeamsの教材教具に各学年ごとに保管し、次年度へ引き継ぐことができた。 ・各授業ごとの反省点を年計のメモしておき、次年度の担当の先生が授業を工夫改善しやすいようにした。	・各学年全18回程度、授業を行い、その中ですべての価値項目を網羅できるようにしたが、例えば小学部はブロックごとで網羅できるような年計でもよいのでは、という意見もあった。
	自立活動	教材の保管庫を整理整頓し、保管されている教材をすぐに見つけて活用できるように環境を整える。 流れ図に沿って、授業でどのような活動を行っているか整理する。	・保管している教材教具の名前や写真などを保管棚に掲示し、一目で何が保管されているか分かるように整理整頓を行う。流れ図を活用し、どのような教材・教具が使われているのかをデータとして集約する。学習指導部自立活動係と連携して、授業に関する情報を収集し、係内で共有する。	⑤⑦	B	・教材の保管庫を整理整頓し、棚に掲示するとともに、ファイルにも整理し、活用できるようにした。また、自立活動で購入したい物品の検討をした。	・教材の保管庫にあるものについて周知し、今後自立活動に活用しやすくしていけるとよい。また、教材の活用方法についても共有できるとよい。 ・各項目の授業内容の整理を行っていく。
	特別活動係	児童生徒会員の児童生徒が、主体的に活動できるように委員会やあいさつ運動などに計画的に実施できるようにする。	・児童生徒会役員の活動日を月に1度程度設定し、児童生徒集会やマナーアップ運動の企画・運営について主体的に話し合いができる場を設定する。 ・委員会活動やあいさつ運動などの計画を立案し、児童生徒に選択したり考えさせたりする機会を作る。	③⑤	B	・学年ごとの目標設定を見直すとともに、新様式に対応した年間指導計画の作成を行うことができた。	・児童生徒会を中心とした活動の他にも、各委員会の活動等で他学年と協働するような活動を導入していく。 ・特別活動で学習する内容を明確にし、年間を通した学習内容の整理をする。

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策
教務部	企画係	自立と社会参加に向けた教育活動の充実に向け、教員一人一人が想像を広げた視点を生かし、よりよい教育課程の運用や編制を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会、学部会、職員会議など想像を広げた視点から出された意見や改善点を整理し、教職員一人一人の参画意欲を高め、カリキュラム・マネジメント推進委員会等で教育課程の見直しや改善を図る。 ・学校運営協議会などで、地域とのつながりを生かし、外部の資源を活用した教育活動を積極的に取り入れる。 	③⑤⑫⑱	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に効率よく会議を進め、教育課程等の見直し等を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の持ち方や授業研究・準備時間など、学校全体の教員が100%満足する計画を立てることは難しいが、改善がされていると少しでも感じることができるよう、学校改善シートやアンケートで出された意見や要望等の検討を丁寧に進めていきたい。
		業務の精選や効率化を行い、教職員の授業力や専門性の向上に充てる時間の確保を目指し、働き方改革の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・優先度が高い業務に必要な時間を確保し、授業準備や学校研究などに取り組む時間を確保できるようにする。 ・ICTを活用した会議、連絡会等の持ち方を工夫し、効率的に情報共有ができるようにする。 	⑥⑧⑬⑳	B	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ十分ではないという意見もあるが、行事や会議等の精選を行い、授業準備等の時間を増やすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員一人一人が想像を広げ、学校運営に対する参画意識を高めていけるように、会議・研究の持ち方は、企画係会と中心として工夫していく。
	庶務係	会計、要録、出席簿のマニュアルの見直しを行い、諸帳簿の適切な運用と管理を適正に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導要録、出席簿、会計簿についてのマニュアルを作成し、必要に応じて変更や説明をし、記入の仕方と管理等の周知を図る。 	⑳	B	<ul style="list-style-type: none"> ・会計検査の年間予定の調整や会計簿様式の見直しを行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度途中でマニュアルの見直しが必要となったことがあったため、今年度の課題を次年度のマニュアルに反映させる。
		校務支援システムでの指導要録の作成や出席簿入力移行を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システム推進係と連携し、指導要録作成のマニュアルの作成、出席簿の入力方法の検討を行う。 	㉑	B	<ul style="list-style-type: none"> ・指導要録に関して、校務支援システムに移行することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導要録の校務支援システムへの移行を行ったが、作成時にいくつか課題が出たため、次年度のマニュアルに反映させる。
		会計処理の正しい手順を年度初めや定期検査時に共通理解し、正確な会計処理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・会計担当者や主任、部主事に会計マニュアルを配布し、共通理解を図った上で会計ファイルの作成、チェック、検査を行う。 	㉑	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsを活用し、事前に会計担当者向けに検査の方法、計画的な入出金について連絡し、共通理解を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計処理に関して、事務室の担当者と連携を図り、出入金日の事前確認等、早めに調整し、会計担当者に周知できるようにする。
	図書科係	教科用図書採択事務、転出入児童生徒の事務、県提出文書の事務処理を適正、迅速に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・通知文書の共有をし、事務処理を期限厳守で行う。書類は複数職員で確認する。 ・教科用図書の活用状況を把握し、見直しを行い、選定委員会、選定協議会の充実を図り、より活用しやすい教科用図書を選定する。 	⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部、中学部、高等部で分担しながらスムーズに進めることができた。また、Teamsを活用して情報の共有や連絡を行うことで、迅速に対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新システムになって1年目なので、今後も教科用図書の報告の際には、操作方法や入力内容などを複数名で確認しながら行っていきたい。
		児童生徒、職員の望ましい図書館利用を推進するとともに、利用しやすい図書室の整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1度程度、図書委員会(小・中・高)と連携し、お薦め図書の紹介等を行ったり、新規購入図書を掲示したりする。 ・図書委員会、クリーンワークス、職員間で連携し、図書室の整備を行う。 ・新規購入図書の選定を行う。 	⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部で図書委員会の活動に取り組むことができた。小学部向けの図書を中心に、希望図書の聞き取りを行い、予算内で図書の購入を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会については、学期に1回程度の小・中学部と高等部の連携をすることが難しかった。学部行事や日程調整などをすることが困難だったので、生徒支援部の特別活動係と連携の仕方を検討していきたい。
	共同学習係	学校間交流及び地域交流における系統性な目標の提示と教育課程への位置づけを提案する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の交流活動の中で、交流に要した総時数及び各教科等における合わせた指導の時数を各学年で記録してもらおう。 ・交流における全体目標、学部目標を7月までに係より提案し、協議できる場を設定する。 ・交流活動の各学年の目標をあげてもらい、系統性について検討できるようにする。 	④	B	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の扱いについて、各部主事と連携をしてすすめることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議が実施時期が早すぎたため、担任が保護者の要望を十分に把握しきれていなかった。保護者と担任で意思疎通を図り、担当者会議に出席するために、実施日を個別面談以降(6月)に設定するよう必要があると考えている。
		本校と相手校の担当者に対して合同説明会を実施し、よりよい交流活動が行えるよう、交流の共通理解を図り、意見交換の場を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地校交流担当者説明会を実施し、昨年度の交流活動の様子と年間スケジュールを知ることで、交流活動の流れを理解し、居住地校交流希望者の実態などを伝える意見交換の場を設ける。 	③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に合同説明会を実施し、交流をするうえでの共通理解や流れ、居住地校交流希望者の実態を伝え、活発な意見交換を深めることができた。 	
	人材育成係	各年次の研修者が研修を通して、実践的指導力を養うとともに、授業力や課題対応力の育成・向上を図ることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・各年次の研修者が見通しをもち計画的に研修を進められるように、初任者、2・3年次、中堅前期・後期の「年間研修スケジュール」を作成する。また、各年次研ごとにTeamsのグループを作成して連絡体制を整え、連絡を密に取り、児童生徒の実態把握、授業づくり、指導案や事例・課題研究レポートの作成等について、継続的なサポートを行う。 	⑮⑯⑰	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの研修該当者が、各年次の研修を通して、授業力および課題対応力の向上を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務のデジタル化を推進し、業務全体の効率化を図るとともに、係の教員が研修者への指導や支援に十分な時間を確保できるよう業務調整を行い、日常的に研修該当者をサポートできる体制を整えていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・「R7基本研修(特別支援学校)研修の手引き」や「年間研修スケジュール」等をTeamsに投稿し、全職員に研修日時や内容を周知することで、支援体制を整える。 ・管理職や各校務分掌部長等と連携しながら、各年次の研修者に応じた校内研修を企画・実施する。 			⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsでの周知と管理職等との連携により、各年次の研修者に応じた校内研修を計画的に実施でき、研修体制の充実が図られた。 		
人権教育・特教研係	人権教育全体計画に基づいて、職員の人権意識の向上を図ったり、児童生徒の人権に関する意識を高めるために、人権に関する研修を実践して深く学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育全体計画を作成する。 ・夏季休業中に1回、人権に関する研修会を企画し、実施する。 ・児童生徒に人権についての理解を促し、人権ポスター、人権メッセージの募集を早めに行い、出品する。 ・人権に関する研修内容について深く学び、職員に周知報告する。 	⑰⑱	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権メッセージの校内提出締切を1学期中にしたことで、余裕をもって学年や係で文章の検討を行い、出品することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の人権研修会の職員参加率が80%だったので、次年度はさらに参加率が上がるように尽力したい。 	
	校内や他校の教員への特教研の研修案内を計画的に行い、研修を円滑に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・他校とのメール対応を速やかに行う。 ・職員室廊下に案内を掲示したり、Teamsでの全職員への周知や参加希望調査を行ったりする。 ・情報教育部や学習推進部とも連携を取りながら、研修当日の準備や運営等を行う。 	⑰	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校外特教研では、他校とのメール対応を速やかに行い、全職員へアンケートの実施、研修準備をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内特教研では、他校へYoutube配信を行ったが、適切な配信方法について、今一度方法の検討を考えていきたい。 	

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策
情報教育部	情報教育・視聴覚係	校内ネットワーク、情報機器、クラウドシステム等の適切な管理・整備を行い、校務の利便性と安全性の確保を図る。(特教研運営支援含む)。	・「機器管理」、「メール管理」、「データ管理」等、管理を分散化し、担当を分けることで、校内ネットワーク等、各種の問題に柔軟に対処できるようにする。 ・一部データのクラウド化を図り、校内働き方改革の推進を図る。	⑳	B	・係内の業務負担が軽減され、機器トラブルへの対応を円滑に行うことができた。 ・一部クラウド化を行うことで、業務効率化を図ることができた。	・職員室内のネットワーク環境がまだ不十分のため、管理職・事務と連携を図り早急に対応していきたい。また、扱うデータに十分注意しながらクラウド化も徐々に広げていき、更なる業務の効率化を進めていく。
	システム型推進係	統合型校務支援システムの基本、全体情報の入力、管理を行い、今年度のシステム内での成績や諸帳簿の運用に向け、準備を行う。	・職員の基本情報等の作成を行い、統合型校務支援システムに入力、更新を行う。 ・個別の指導計画が入力できるように、マニュアルを作成し職員周知を行う。	⑰	B	・年度初めの基本、全体情報の入力を行い、セットアップを行った。 ・指導要録のマニュアルを作成し、職員周知を行った。 ・個別の指導計画のマニュアルを作成し、係で試行を行った。	・本格始動が始まるにあたり、職員研修を行ったりトラブルへの対応を行ったりしながら取り組んでいく。
	活用推進	ICTや情報機器を活用した授業及び働き方改革(業務の削減・効率化)の推進を行う。	・情報ポータルサイトを作成し、職員周知を行う。 ・ICTの活用や業務の効率化に向けて研修会を開催し、職員のスキルアップを図る。	⑨⑳	B	・ICTポータルサイト及び情報部内のマニュアルを整備した。	・係内での研修を進めていき、校内のICT推進活動を一層進めていけるようにする必要がある。
生徒支援部	生活支援係	いじめや不登校の早期発見・解決に向けて、実施時期に応じたアンケート内容の充実や教職員の研修の充実を図る。	・いじめや不登校の早期発見・解決のために、児童生徒及び保護者向けの心のアンケートについて実施時期を鑑みながら内容を検討し、児童生徒の現状や支援・指導方法について家庭と学校とで共有できるようにする。 ・いじめや不登校等の問題に関する職員のアンケート調査を実施し、研修を実施する。 ・オンライン相談窓口を活用し、不登校の児童生徒や、直接話しにくい児童生徒からも気持ちや言葉を聴けるようにする。	⑪⑬⑱⑳	B	・各学期に1回ずつ、児童生徒と保護者に向けて「心のアンケート」を、教職員向けに「いじめ発見のためのチェックリスト」を実施することができた。 ・職員向けにオンライン相談窓口開設に絡めて教育相談の研修や、いじめ防止に関する研修を実施することができた。 ・不登校や直接相談できない児童生徒からも気持ちや言葉を聴くために、オンライン相談窓口を開設することができた。	・アンケートの集計に時間がかかったので、Formsなどのアプリを活用し、集計にかかる時間を短縮し、分析をより深くする。 ・いじめ・不登校、その他生徒指導上の課題に関する研修をより充実させるため、係内での研修や、職員向けの情報提供などを行う。 ・オンライン相談の利用者が少なかつたため、児童生徒、保護者に向けてPRを積極的に行う。
	通学支援係	スクールバスに関わる職員間の連携を密に行うことで、安心・安全かつ円滑な運行を目指す。	・係職員や乗務員、担任等の関係職員と連携を密にとり、諸問題が起きた際の早期対応を行うことができるように努める。また、ラインワークスを効果的に使い係職員の連絡・報告・相談を円滑にし、必要に応じて各学期に設定してある連絡協議会や添乗指導を行い、路線や児童生徒の状況把握に努める。	②③	B	・効果的にアプリを使用し、日々のトラブル対応や細かな変更点、欠員が出たときの填補などに円滑に対応することができた。	・ロータリー中央の石碑が撤去されたことで、児童生徒数増加に伴う再来年度に見込まれる増車についても対応できそうである。停車方法については児童生徒の安全を第一に円滑に誘導できる方法や入出庫の安全等も精査しながら運用していく。 ・放課後デイ対応では、業者数や送迎車両が増加した場合の駐車場確保が必要である。また、送迎車の入庫が完了していない状況で、児童生徒の下校(通行)があり、安全面を考慮すると、下校時刻(昇降口を出る時間)などを、定めておくことも必要と考える。
		SB自力・自力通学生に向けた定期的な安全指導を行う。	・普段の指導や緊急時の際に対応できるように、担任による経路等確認や係観察等を行う。また、毎月1回、自転車安全点検表をとおして安全指導及び家庭での自転車点検を促したり、係及び担任による安全指導を年間2～2回実施したりする。	②⑩	B	・自力通学希望の生徒の観察について可能な限り観察の様子を動画で撮影し、自力検討委員会にて係職員で安全面について綿密に検討をすることができた。また定期的な安全点検や安全指導では季節ごとに注意すべき点を精査し指導することで重大事故は発生していない。	
		放課後等デイサービス業者との連携を図りながら、児童・生徒の安全に留意して、誘導業務を行う。	・放課後等デイサービス事業所説明会やメール、楽メ等を利用して、放課後等デイサービス業者との連絡調整を行うことで連携を図っていく。校内誘導を行う係職員とランシーバー等を利用して、児童生徒の安全に留意するとともに、円滑に誘導業務を行っていく。	⑬⑳	B	・楽メ等を活用しながら、各業者との連携を図っていくことができた。ランシーバー等を活用しながら、児童生徒の安全に留意して、誘導業務を行うことができた。誘導業務に関して、分担制にしたことにより、担当者一人あたりの仕事量を減らすことができた。	
特別活動係	児童生徒会役員の児童生徒が、主体的に活動できるように委員会やあいさつ運動など計画的に実施できるようにする。	・児童生徒会役員の活動日月にを一度程度設定し、児童生徒集会やマナーアップ運動の企画・運営について衰退的に話し合いができる場を設定する。・委員会活動やあいさつ運動などの計画を立案し、児童生徒に選択したり考えさせたりする機会を作る。	①②⑤	B	・児童生徒会の役員においては積極的な様子が多く見られ、生活目標や集会のクイズ、マナーアップ週間の取り組みなど自分の意見を言う場面が見られた。	・中学部の委員会について、1学年2つ程度の委員会を固定化する。 ・新校舎に伴い、今まで以上に各学部の棟が離れているため、昼休みに集まるのが難しくなり、活動の精選が必要になってくる。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策	
保健 安全部	保健指導係	児童生徒一人一人が目の健康について考える機会を設けることで、タブレット等の電子機器を使用する際の約束を意識したり、目に優しい行動をしようとしたりすることができるようにする。	・タブレット等のインターネット使用による目への悪影響や、目を大切にするための行動などについてのスライドや動画を1つ以上作成し、各学部でそれらに関する授業の実施を促す。 ・児童生徒集会などで、保健委員会の取組を発表(周知)し、全校で目の健康について考える機会を設ける。	①②	A	・目のストレッチや遠くを見ること、外遊びを推奨するなど目の健康に良い行動や知識を身につけられるよう目の健康スタンプラリーを実施した。 また、中高等部で作成した動画を全校集会で周知した。	・今後も体や心の健康、怪我の予防などについて、児童生徒が正しい知識や望ましい行動を身につけられるよう支援・指導を継続していく。 ・緊急時対応研修は今後も継続し、緊急時に教員が落ち着いた行動が取れるよう、また児童生徒の命を守ることができるよう、教員の危機管理の意識を高め、対応力向上を図っていく。	
		緊急時対応研修では、119番通報時のやりとりや、学年、コースを超えた協体制度など、実際に緊急時になった場合の体制に近い状態で研修を行うことで、教員の危機管理への意識を高め、緊急時における対応力向上につなげる。	・119番通報した際のやりとりを係が行い、通報した際の対応も研修できるようにする。 ・高等部では、コースでの実施だけでなく、学年での研修も行う他、他の学年やコースとの連携も想定した訓練を1学年以上行うようにする。	⑫⑬	B	・年2回緊急時対応研修では、各学年で起こりうる状況への対応を学年を中心に考え、研修を実施することができた。また、緊急時には校内放送を流すことにするなど、学校全体の対応も検討しなおし、実施することができた。		
	医療的ケア	周辺業務を的確に行い、看護職員と教員が連携して安全に医療的ケアを実施し、ケアと教育の両立を図れるよう努める。	・速やかに、漏れなく手順を確認できるように、端的で明確なマニュアルを作成する。 ・テキストや動画等を利用しながら、係内で定期的に研修を行い、ケアに関する基礎的な知識を習得する。	⑬⑭	B	・ケアの実施場所や時間について、看護職員と話し合いを重ね、ケアの安全性を担保するとともに学習に参加できる体制づくりを意識しながら進めることができた。	・教員と看護職員が役割分担を明確にして連携し、情報を共有したり話し合いを重ねたりしながら児童生徒の教育活動を支えていく。 ・医療的ケアが必要な児童生徒について生じた課題は、校内安全委員会でも適宜協議し、安全な医療的ケアの実施につなげていく。	
		校内安全委員会では、直近の児童生徒の様子を端的にまとめ、予定時間内に会議が終了するよう効率的に進める。	・児童生徒の様子について、事前に看護職員と時間配分等の打ち合わせを行い、会議の効率化を図る。	⑳	B	・議題によっては係内で検討した内容をまとめた別紙詳細資料を作成し、会議が円滑に進められるように努めた。		
	食育係	食物アレルギーや食形態等について個別の対応を施し、安心、安全な給食に努める。□	・保護者、栄養教諭、養護教諭、担任等で連携し、食物アレルギーや食形態等について個に応じた対応を検討し共通理解を図り、実施していく。	⑬⑭	B	・前年度から引き続きアレルギーや再調理等の対応をする児童生徒を始め、新たにアレルギーの対応をするべき事例や解除する事例について、その都度速やかに保護者に確認をとりながら安全委員会を開催して検討し実施することができた。	・今年度は、アレルギーや再調理食の対応に限らず、特定の疾患に伴っての食事制限等の対応も行った。今後も様々な事例が出てくるものと思われるため、対応を検討していく必要がある。 ・コロナの感染が落ち着いてきたため授業で調理活動を行うようになったが、調理実習時のアレルギーや再調理食についての対応を今後は家庭科の教員と連携しながら考えていく必要がある。	
		食育や摂食について、教職員で研修を行い理解を深める。また、児童・生徒に対しても、栄養や食事の仕方等についての指導を充実させる。	・教職員が児童・生徒への指導や支援の充実を図るために、外部専門家による連携相談や研修会を実施する。 ・児童・生徒に対して、栄養教諭による栄養や食事の仕方等の食育に関する授業を行ったり、食育だよりを作成し発行したりする。	⑬⑭	B	・5月に歯科医師と管理栄養士から、口腔機能や食べ方についての研修を実施した。食べ物や飲み物を使って実践しながら行ったことで、職員の理解を深めることができた。		
	安全防災係	災害別の避難訓練を通して、状況の変化に応じた柔軟な判断力と行動力の向上を図る。	・日時や火元を明かさないシーケツト避難訓練を実施する。 ・災害の種類に対応したパワーポイントや動画の用意、布担架の使い方の紹介、避難経路の周知などを行う。	⑨⑩	B	・出火場所や通行止めの箇所を明らかにしない避難訓練や日時を告知せず学年裁量で設定するショート避難訓練を実施した。	・地域の方々や専門家と協働した授業づくりとして、消防団や消防士、被災された方を招いた授業を実施したい。	
		学校安全総合支援事業を通して、危機管理体制の見直しと強化を図る。	・水戸気象台やアドバイザーと連携することで、危機管理マニュアルの見直しを行う。 ・関係機関や地域と連携した避難所設営や避難所体験を通して、教職員の役割分担等を確認する。また、避難所開設マニュアルの見直しを行う。	⑬⑭	B	・つくばみらい市との打合せや学校防災連絡会議を通して、避難所開設マニュアルと危機管理マニュアルの見直しを行った。	・PDCAサイクルに基づくマニュアルの定期的かつ継続的な見直しの実施。	
	進路 支援部	同窓会支援	同窓会活動の活性化を図り、同窓生とその保護者から信頼され開かれた学校づくりを目指す。	・同窓会役員との連携を密にするとともに、役員会において前回の反省や課題点を互いに出し合い、次年度への同窓会に生かしていけるよう役員会を支援する。	⑳	B	・前年度の同窓会の反省から、QRコードを使って同窓会の申し込みを行った。役員会での意見などを取り入れることで同窓会の運営がスムーズにできた。	・役員会との連携においては、特に問題となることはない。引き続き、役員会での話し合いなどを密にとるようして連携を図る。施設関連の販売においては、進路支援係との連携をとり、今後とも進めていく。
			今後の卒業生の受け入れをスムーズにする関係づくりの一助として、福祉施設からの注文案内を円滑に行うことで、児童生徒が就労に向け、生き生きと楽しく学べる学校を目指す。	・施設関連販売の広報や周知を行い期日等の調整することで、販売をスムーズにできるようにする。	⑳	B	・進路支援係と連携をとることができた。	
進路支援係		近隣の福祉事業所、各種福祉サービス、障害者雇用などに関する進路情報について、本校HP及びメール配信サービスを活用し、より広く周知できるよう積極的な情報発信に努める。	・動画視聴形式による福祉事業所説明会、福祉事業所ガイドブックの情報更新、進路情報や福祉サービスの説明など、既存の本校進路支援の取り組みや卒業後の進路選択に必要な情報を本校HPやメール配信サービスを活用して広く発信する。 ・高等部3年生の生徒及び保護者を対象に、卒業時の福祉サービス利用手続きや将来の障害者年金申請に関しての理解を深められるよう、各市福祉課と連携して福祉相談会を実施する。	②	B	・メール配信サービスや本校HPを活用し、福祉事業所情報や進路決定までの流れについて広く発信することに努めた。	・今年度の保護者・本校職員を対象としたアンケート結果を踏まえ、これまでの本校進路支援の取り組みを見直し、ニーズに対応できる進路説明会や進路に関する情報発信に努めていく。また、昨今の障害者雇用や福祉サービスに関してより理解を深められるよう、本校全教職員に向けた進路研修の実施を検討する。	
	本校教職員に対して、必要な進路関連の知識や情報を広く共有したり、研修として福祉事業所見学や企業見学を実施したりして、校内全体として進路支援や障害者雇用に関する理解推進を図る。	・各学部に応じて、教職員が必要としている進路支援上の知識や情報などのニーズを把握するとともに、進路の手引きを活用しながら進路支援に関する教職員の知識・理解を深められるようにする。 ・教職員を対象に、福祉事業所見学や企業見学を実施し、各事業所での取り組みや業務内容を研修することで、高等部卒業後を見通した進路支援への理解を深められるようにする。	⑥⑬⑭	B	・保護者や職員を対象にアンケートを実施し、進路支援のニーズの把握に努めた。高等部職員を対象に進路研修に取り組んだ。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策	
学習推進部	授業改善推進係	育成を目指す資質・能力を踏まえた各教科等を合わせた指導の充実に向けた授業評価の工夫を行う	・外部講師を招聘したり、校内の人材を活用したりして、各教科等を合わせた指導の授業評価の工夫を研修する。 ・各学部ごとに各教科等を合わせた指導の単元や年間指導計画の整理をすることで、学部ごとの系統性を整え、課題解決に向けた授業改善及び協議を行う。	⑥⑬⑱	B	・6名の外部講師から指導助言を受け、その内容を研究に生かした。 ・小中学部は生活単元学習、高等部は作業学習を対象とし研修に取り組み、各学部、課題をあげ、改善に向けて年間指導計画の作成し、評価に関する様式を作成し、TT間の共通理解を図ることができた。	・今年度行った研究内容を生かし、児童生徒の主体性を引き出す授業づくりを続けていく。 ・次年度も研修テーマに応じて、専門的な学びを頂ける外部講師の方を招聘する。 ・系統性を整えていくことはできたが、実践にはつながらなかった。次年度以降実践と必要に応じて改善・検討をしていく。
	学習計画係	個別の指導計画等の作成・配付や年間指導計画の作成等について、全職員が円滑に行うことができるように、その都度Teamsや会議等で周知を図る。	・作成・配付スケジュールや作成内容について、主にTeamsを通して伝達する。 ・個別の指導計画の書き方や記入例を示した「個別の指導計画等の作成マニュアル」を作成し、Teamsで閲覧可能とすることで全職員が活用でき、作成に取り組めるようにする。	⑥⑧	B	・個別の指導計画関連、年間指導計画関連、作成マニュアル等についてその都度Teamsで全体周知を図ることができた。	・次年度より、校務支援システムを使用している個別の指導計画作成、新様式を用いた年間指導計画作成となるため、全職員が円滑に業務遂行できるように、Teamsだけではなく、職員会議等で詳細に説明するなど、全体で共通理解が進むような周知を行う必要がある。
		年間指導計画の見直しを行い、次年度からの運用に向けて記入形式を作成する。	・他校の年間指導計画を参考に、個別の指導計画作成に落とし込みやすいような本校形式を検討していく。	⑥⑧	B	・他校の年間指導計画を参考に、次年度運用予定の本校オリジナル年間指導計画様式を作成することができた。	・次年度より運用予定の新様式の年間指導計画について、不具合等あれば直ちに修正を行い、全職員が理解を深め、よりよいものを作成する意識を高める必要がある。
	自立活動係	教職員一人一人の自立活動における指導力向上のため、外聞専門家による個別の連携相談の内容の充実化を図ったり、校内全体研修を開催したりする。	・連携相談をより充実したものとするため、外部専門家・担任それぞれに対しての打合せ等を綿密に行う。 ・昨年度の担任アンケート等をもとに、児童生徒や担任の多くが感じている困り感の解決につながるような研修を企画する。	⑦⑮⑯	B	・連携相談では、外部専門家・担任それぞれと綿密な打ち合わせを行い、担任や児童生徒の困り感を正確に共有したうえで行った。それにより、児童生徒によっては、学校生活を送る上で良い変化が見られた事例もあった。また、昨年度のアンケートをもとに、作業療法に関する研修を企画した。	・ケースによっては、各担任が作成した資料内容が外部専門家に異なった意味で受け止められていたものがあった。そういったことを減らすために、連携相談シートの記入例を工夫し、よりよいものにできるようにする。
		外部専門家への連携相談内容や支援方法、児童生徒の変容等について本校教員や外部の教員へ情報共有するために、本校ホームページに掲載する。	・自立活動連携相談日の放課後に係内で研修を行い、年間3回程度ホームページへアップできるようにする。 ・本校教員に閲覧してもらえるように、ホームページへ掲載した際には、チームズや各学部会で周知する。	⑦⑧⑯	B	・PT・OT・STの連携相談で得た支援方法等についてHPに掲載を行った。また、年度末の各学部会にて、一部の連携相談の内容や児童生徒の変容について周知を行った。	・今後、情報発信の機会や件数を増やしていき、職員が感じたことのある困り感やよりよい支援方法を共有していけるようにする。
各教科係等の指	各係の課題を整理し、テーマに沿った各教科の係会の運営ができるようにする。 教材教具の共有や活用に向けて、Teamsの運用を積極的に進める。	・係長会を定期的に設定し、各係のテーマや課題を共有し、学校全体での情報共有に努める。 ・教材教具の共有場所を周知し、有効な教材の紹介を定期的に行う。	⑤⑥	B	・年度初めに取り組むべき課題を各係に提示できたこと、年間指導計画の作成をスムーズに進めてもらえるように調整できたことで、係会や課題解決がスムーズに進めることができた。	・Teamsを活用しての教材・教具の共有や、各係がまとめた物の共有を積極的に行えるようにしたい。	
スポーツ・文化活動推進部	部活動	生徒が運動や芸術活動に取り組む楽しさや喜びを感じながら、活動することができる。	・生徒の実態等を把握し、実態や状況に応じた活動内容を設定する。また、称賛される機会を多く設定し成功体験を増やす。	④⑬⑱	B	・活動量の確保の確保に重点を置き、活動内容の工夫を行ったことで、生徒たちは楽しく意欲的に活動する姿が見られていた。	・部活動の指導担当の情報共有を行い、新しい活動を取り入れながら指導を行えるようにしていく。
		保護者や地域に向けて本校の部活動の活動の様子を発信していく。(ブログ毎月更新)	・どのような活動をしているかが分かるように、伊奈特ブログに大会の報告や活動の様子等を毎月アップする。	④⑬⑱	B	・各部活動で定期的にブログを更新し、外部への発信をすることができた。	・ブログの配信日を設定し、保護者や外部の方に発信できるようにする。
	スポーツ推進係	特体連体育大会や特体連スポーツ大会において、円滑な計画及び安全な大会運営を推進していくとともに、校内の関係職員と参加計画を立て、安全・安心な大会参加を推進する。	・特体連主催の各種大会において、実行委員会での決定事項を関係職員と情報共有や連絡調整を行い、連携して円滑な大会運営を行う。また、関係職員と連絡調整・情報共有を密に行い、参加児童生徒の選出や参加計画等の一連の流れについて会議やICTを通じて効率よく行ったり、見通しをもって安全に参加できるように計画を立てたりする。	④⑬⑱	B	・校内職員間の連携を図り、円滑に大会参加することができた。 ・大会の実施要項を関係職員で情報共有、連絡調整を行い、連携を図ることができた。	・円滑に大会参加、運営ができるように校内の体制づくりをしていきたい。 ・担当教員の分担を細分化していく。
		各スポーツ大会やスポーツ教室や作品展や展覧会などの情報を楽メ等で保護者にお知らせする。	・各スポーツ大会やスポーツ教室の開催、作品展や展覧会等の案内が届いた場合には、内容を確認し保護者へ楽メで情報提供を行う。	④⑬⑱	B	・作品展等についての案内を適宜、保護者へ情報共有することができた。 ・スポーツ教室の案内を楽メで保護者へ情報提供することができた。	・作品展については、教科領域図工美術とも連携をとっていきたい。 ・大会への参加を推進をしていく。
文化活動推進係	・児童生徒の外部への作品等の展示を通して、自己肯定感や社会参加への意欲を高める。	・ナイスハートふれあいフェスティバルや全国特別支援校長会作品展の概要や、地域の方に作品を見てもらう機会であることを児童生徒に伝える。 ・ナイスハートふれあいフェスティバルでは、出展を希望する学年の作品を展示できるよう、各学年と連携して展示方法や制作内容を検討する。	⑬	B	・いばらきパラアーティストフェスティバルへの出展は、教科領域の図工・美術の職員と連携して、全学年出展することができた。	・いばらきパラアーティストフェスティバルに全学年が出展できるように、年度初めに年計や作品の大きさや種類などを確認するなど、教科領域の担当職員と引き続き連携していきたい。	
	・児童生徒が創意工夫して制作活動に取り組む意欲を高める。	・児童生徒が目的意識につながるように作品展への出展や選定を実施する。	⑬	B	・特長会への出展作品を全学年、部活動での作品から選定することで、全学年の児童生徒に出展の機会を設けることができた。	・事前に作品展についてや作品の選定を行うことを、児童生徒に伝えることで、制作活動の意欲を高めていきたい。また、引き続き、できる限り全学年から作品を提出してもらうことで、作品展に出展できる機会を設けていきたい。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策	
渉外	PTA行事関連の企画と運営について、役員、地区幹事長、進路研修委員の保護者との円滑な連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 本部役員がPTA活動についての運営の内容検討を効率よく実施できるよう、役員会等で情報の共有化を図る。 地区PTAの活動について、地区幹事との連絡調整や実施にかかる文書作成、配付、回収を行う。 進路研修委員会として、進路にかかわる講演会の迅速な計画と円滑な運営に務める。 PTAの活動について、ブログで周知を行う。 	⑱⑲	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA行事の企画・運営にあたり、役員・地区幹事・進路研修委員の保護者と円滑な連携を図り、協力体制を築くことができた。各委員の意見を尊重しながら調整を進めたことで、それぞれの活動の目的が共有され、参加者にとって有意義な活動となった。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会における回答率が十分に高くなく、現行の回答方法では保護者の参加や協力を十分に得られていない。今後回答率の向上を目指して、次年度は紙媒体での回答方式へ移行し、保護者がより取り組みやすい環境に整える。 	
サポート 特別支援教育	地域連携体制構築事業（2年目）において、小中学校の校内委員会に参加して適切な学びの場の検討に資するとともに、動画コンテンツの継続配信や研修会の企画を行い、小中学校における特別支援教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 小学校に加えて中学校の校内委員会にも参加できるか市教委を通して確認する。参加の際は、昨年度作成した検討手順シートを活用する。小中学校における知的障害学級の教育課程の編成や自立活動についての研修会を計画・実施する。 	⑲⑳㉑	A	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談や各市CO会議を活用して、小中学校の校内委員会(教育支援委員会、校内ケース会議、職員研修会等)における、学びの場の検討に関する助言や講義、資料提示をすることができた。関連する動画コンテンツの継続配信や小中学校の教員を対象とした自立活動や知的障害学級の授業に関する研修会を実施し、特別支援教育の充実に向けての働きかけをすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談や各市教育支援委員会、各市CO会議における助言によって、適切な学びの場の検討の適切な方法について改善が図られつつあるが、各市の課題も依然として認められる。継続して、根拠ある適切な学びの場の選択について伝えていく必要がある。 来年度以降も地域の特別支援教育の充実を図る複数の事業を推進するために、校内の巡回相談員の育成は引き続きの課題である。各メンバーのニーズに応じた校内外の研修機会を確保したい。また、巡回相談の実地研修は最も実践的な研修であり、継続して2名体制で出向けるようにしたい。 	
	増加する巡回相談や推進体制充実事業のCO会議、各市教育支援委員会にて的確なアセスメントと助言ができるよう、複数名の新規の巡回相談員の養成を行うとともに、巡回相談員各自の力量を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 調整可能な範囲で、経験のある巡回相談員と新規メンバーの2名体制で巡回相談に出向くことで、実地研修を積む。また、巡回相談に加えて、CO連絡会(1回/月)や校内ケース会議等を通して、各自のアセスメントや指導・支援方法についての知識や技術の向上を図る。 	⑭⑮⑯⑰⑱	B	<ul style="list-style-type: none"> 調整可能な範囲で2名体制にて巡回相談に出向き、実地研修を行うとともに、各市CO会議等に向けての校内打合せやミニ研修会を実施して、各巡回相談員の力量を向上させることができた。 		
事務部	庶務	適正な文書管理に努め、能率的な事務処理を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 文書管理規定にもとづき、迅速適正に処理する。早急・重要な文書に迅速に対応する。 	㉒	B	<ul style="list-style-type: none"> 文書管理規定のとおり処理を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度と同様に規定どおりの処理を確実に行う。
	会計	会計の適正、効率的執行に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 研修会に参加し財務会計知識の習得に努める。 法令等に基づいた、適正な執行を行う。 	㉒	A	<ul style="list-style-type: none"> 各研修会に参加をして研鑽に努めるとともに、事務室内で資料配付をして情報の共有を図った。 会計処理は適正に行われている、限りある予算を効率的に執行するために計画的に執行することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に研修会へ参加し、知識の向上に努め、ミスのない事務処理を行っていく。 常に事務処理の効率化を考え、情報収集に努めていく。
			<ul style="list-style-type: none"> 予算執行は、計画的・効果的に経済性を考慮して執行する。 	㉒	A		
	施設管理	施設設備の良好な維持管理に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の安全確保に努め、迅速な対応を心がける。 	㉒	A	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を基に不良個所の早期発見に努め、修繕を行った。 建物の老朽化が見え改修を要する施設設備について修繕、更新を行ったまた、新校舎に係る物品購入や環境整備を進め、新年度から円滑に業務を始められるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模な改修を要する施設等について県との連絡を密にし早期の改修実現に努めていく。
<ul style="list-style-type: none"> 中期・長期的な展望をふまえた、計画的な整備をすすめる。 			㉒	B			
給食	食の安全、安心に向けて、更なる衛生管理の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 作業の恒常化のため、マニュアルの作成、見直しを行う。 	㉑	B	<ul style="list-style-type: none"> 食材毎の洗浄マニュアルを作成し、給食室内で情報共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 再調理は、今年度稼働後に変更点があ出てきているため、次年度は、マニュアルの見直し、改善していく。 	

令和7年度 学校自己評価(学部・学年・コース)

評価 A:十分達成できている。 B:達成できている。 C:おおむね達成できている。 D:やや不十分 E:不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策
小学部	子どもたちが学ぶことを楽しみ、考える力や挑戦する気持ちを育むことのできる授業づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 適切な実態把握に基づき、目指す児童の姿をイメージした目標の具現化や評価の観点の共有化を図る。 目標達成のための効果的な支援方法について、適切な学習評価に基づいて振り返り、授業改善を行う。 自立活動と各教科等の指導との関連を意識した授業づくりを行う。 	⑤⑥⑦⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味・関心や発達段階に応じた教材を用意したり、活動の中で選択、思考する場面を適宜設けたりすることで、児童が主体的に学習活動に取り組むことができた。 学習と行事とに関連をもたせて計画、実施することで、学習内容の理解や学習の効果を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習評価に基づいた授業改善のために、支援方法を評価したり、複数のアセスメントを活用したりすることで、特性に応じた支援方法を検討していく。
	自分でできることを増やし、周囲の人と一緒に楽しく活動できる力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣について、保護者と連携を図りながら、実態に応じた指導を行うとともに、自分でやろうとする意識を育む。 自分の気持ちを相手に伝える方法を学び、集団活動におけるルールや他者とのかかわり方を理解できるようにする。 学習や生活の中で協働的な学びの場を意図的に設定し、友達と協力することの楽しさや大切さを感じられるようにする。 交流及び共同学習では地域とのつながりを大切にし、幅の広い体験活動を行う。 	①②③④	B	<ul style="list-style-type: none"> 一日の活動に見通しをもてるように示したり、実態に応じて支援の方法を調整したりすることで、身の回りのことに自ら取り組みようとする姿を引き出したり、一人でできることを増やしたりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 人との関わりの指導については、発達段階だけでなく生活年齢に応じた関わりを意識していく。学年ごとに系統性をもって指導に当たっていく必要がある。
	安心して学ぶことができる環境の設定や信頼関係の構築を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 事故やケガを防ぎ、緊急時に適切に対応できる環境を整える。 心理的な安全の確保を行い、いじめの防止に努める。 緊急時の連携体制について、訓練や研修の充実に努める。 児童の行動をよく観察し、行動の背景や気持ちを汲み取りながら丁寧にやりとりすることで適切な関係性を築く。 	⑱⑳㉑	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携や、教員間での細かな観察により、児童の心身の状態をよく把握することで、児童に寄り添った支援や、トラブルの未然防止に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害特性に配慮したより適切な支援方法について、研修を深め、実践していく。 支援方法について、保護者や教員間の共通理解を深めていく。 学年をできるだけ同じフロアに配置し、掌握や連携がしやすい環境を整える。
	ICT機器の活用や行事、業務の見直しを図り、効率的に業務を遂行できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 学協会や主任会等で周知する機会を増やし、学年を超えた教材や文書の共有を促進する。 例年行っている行事や学習活動を見直し、目的や内容を絞ったり、優先順位を付けて実施したりする。 行事や事務処理等の業務内容について年間計画を立て、見直しをもって計画的に仕事を進められるようにする。 	㉒	B	<ul style="list-style-type: none"> Teamsの活用により、教材の共有がスムーズになり、授業内容の共通理解や児童の実態に合わせた教材作りなどを効率的に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年を越えた教材の共有が図れるように、周知する機会を増やしたり、アナログ教材の管理場所や環境整備を行ったりする。
小学部第1学年	子どもたちが興味・関心もち「やってみよう」と自分から手を伸ばしたり、友達の真似をして「やってみよう」と取り組んだりすることができるような教材・教具、授業作りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の3観点に沿った目標を設定し、児童が「できた」「またやりたい」と感じることができるような、教材作成や授業作りを行う。 児童のつまづきに対して、教材研究の時間をとり、職員間の共有を図り、次時の授業作りにつなげる。 児童の実態把握のために、学校生活における「できること」「支援を受けてできること」を担任間で共有し、自立活動と関連して学習していくことを明確化する。 	⑤⑥⑦⑧⑨	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味関心のある題材・教材を使用し、手本を示したり友達のやっている姿を見せたりすることで、児童が自ら「やってみよう」と思う場面を設定することができた。その成果として、はじめての活動にも挑戦しようとする場面が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動において、児童自身が考える時間を授業内でどのように確保するかが課題である。児童の「やってみよう」意欲を尊重するために、児童の実態に応じた考える時間の個別化を図る。そのためには、実態把握と職員間の共有のための時間を学年会内で設ける。
	学校生活に見通しをもち、朝の支度・帰りの準備を自ら行おうとする態度や、挨拶を通して人とかかわりやすいと感じる気持ちを育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と連携を図りながら、家庭生活における「できる」を伸ばし、「支援を受けてできる」ことを増やしていけるような環境作りに取り組む。 挨拶を通して、人とかかわる場面を増やし、教師と一緒に取り組む場面、友達と一緒に取り組む場面を設定し、他者とかかわりの基礎となる力を育む。 地域交流では、地域の方との交流の中で、一緒に活動することの楽しさを感じることができるような環境を作る。 	①②③④	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業のはじまりとおわりに見通しをもつことで、いすを用意したり、座ったりすることができた。 教材・教具を共有し、やりとりの手本を示すことで、口頭で「かして」と伝えたり、手話で相手に「かして」と伝えようとしていた姿がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童ができることを行うための活動時間の確保と支援方法の共有が課題である。変容する児童の実態に応じて、担任間での意思疎通を短時間で毎日行う時間を確保する。特にやりとりの場面では、言葉かけの具体性などに焦点をあてて共有する。
	子どもたちが安心して学校に「行きたい」と思うことができるように、気持ちの変化を受け止められる環境作り、気持ちを整えることができる時間の確保を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 1日の流れに見通しが持てるように、視覚的な支援、聴覚的な支援など児童の実態に応じて教材や環境作りを行う。 保護者との連絡帳のやりとりから、児童の不安を取り除くための環境作りを学年職員で共有していく。 	⑱⑳㉑	B	<ul style="list-style-type: none"> 手本や見本で活動のゴールを提示することで、終わりに見通しをもち安心して活動に取り組める場面が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動に見通しを持たせるための方法の個別化が課題である。全体に提示する手立ての方法について、視覚的・聴覚的な情報をどの程度提示するかを授業担当者間で共有する時間を設ける。
	Teamsを活用して、教員間の連携や会議の設定、教材・教具の共有など、業務の見直しを含めた効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> Teamsの機能を利用して、学年会における協議内容の精選・連絡事項の確認を行い、会議時間の短縮を図る。 学年会後、授業担当者間の教材研究、または、児童が「できるようになったこと」「できるようになってきていること」を担任間で共有する時間を設ける。 	⑨⑳	B	<ul style="list-style-type: none"> Teamsの投稿機能やチャット機能を使用することで、会議前の打合せや授業計画の立案のための調整などに効率よく活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会議時間の短縮に応じて、授業担当者の授業準備時間と児童の実態把握・職員間の情報共有のための時間確保が課題である。学年会内での協議事項の精選とFormのアンケート機能を使用した意見や反省等の集約を進めることで会議時間の短縮を図る。

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策	
小学部第2学年	子どもたちが「やってみよう」と自分から手を伸ばしたり、より良くなるよう考えたりすることのできるような教材・教具、授業づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の3観点に沿った目標を設定し、児童の興味関心を引き出す教材作成や授業づくりを行う。 スモールステップの目標を設定し、達成感・成就感を味わうことができるようにする。 	⑤⑥⑦⑧⑨	B	<ul style="list-style-type: none"> 体育では、児童の実態に合わせた教材・教具を準備することで、「やってみよう」との思いを引き出して活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題別グループやクラスでの学習で使っている教材を共有することで、より興味関心を引き出す教材作成ができるようにする。 	
	日常生活の中で、自分のことは自分で行おうとする態度や、挨拶や簡単な約束を守ろうとする気持ちを育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に合った支援をすることで一人で行えることを増やし、自分でやろうとする意識をもてるようにする。 児童の実態に合った方法で挨拶をすることができるよう支援をしたり、簡単な約束を設定し、集団で楽しく活動ができる経験を重ねることができるようにする。 学校間交流や地域交流では、地域の方や友達と楽しく交流できるようにする。 	①②③④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正してから始めの挨拶をすることで、授業の始まりを意識することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童なりの表現で、自分から挨拶ができるように支援する。
	子どもたちが安心して学習に取り組むことができる環境の設定や、気持ちを受け止めてもらえているという安心感をもてるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 事故や怪我が防ぐことができるような学習環境を設定することができるよう務める。 児童の行動や表情などをよく観察するとともに、安心して気持ち伝えることができるよう、児童の気持ちに寄り添いながら支援する。 	⑱⑳㉑	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携して児童の心身の状態を把握することで、児童の気持ちの変化の原因を分かって対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故や怪我が起こりそうになった状況を分析し、今後の事故につながらないように対策をする。 	
	教員間の情報、教材等を共有し、より効率的に業務を遂行できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> Teams等を活用し、教材の共有を図る。学年会等で、児童の様子や授業について情報を共有したり意見を出し合ったりすることで、より良い教材作りや指導力の向上を図る。 	⑨㉒	B	<ul style="list-style-type: none"> 教材・教具の共有をすることで、児童に分かりやすいスライドや実態に合った教材を準備することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材置き場が狭く、アナログ教材の共有が難しい。共有できる教材と捨てるべき教材を選別するようになる。 	
小学部第3学年	子どもたちが興味をもって自分から手を伸ばしたり、「もっとやりたい」と挑戦する気持ちをもって取り組むことができるような教材・教具、授業づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の3観点に沿った目標を設定し、児童の個性を生かし、興味関心を引き出す教材作成や授業づくりを行う。 スモールステップの目標を設定し、達成感・成就感を味わうことができるようにする。 	⑤⑥⑦⑧⑨	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童が興味をもって取り組んだり、繰り返し挑戦しようとするような教材、教具や授業づくりをすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 一度に全員が取り組むことが難しい内容も多く、順番を待つ時間ができてしまう。待ち時間をもっと有効に使う工夫が必要。 	
	自分の身の回りのことを自分でやろうとする気持ちを育み、周囲の人と一緒に活動することの楽しさを感じることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に合った支援をすることで一人で行えることを増やし、自分でやろうとする意識をもてるようにする。 児童の実態に合った方法でのかかわりを支援したり、簡単な約束を設定し、集団で楽しく活動ができる経験を重ねることができるようにする。 学校間交流や地域交流では、地域の方や友達と楽しく活動できるようにする。 	①②③④	C	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの実態に応じた支援を行い、できることを増やし、自分でやろうとする意識をもつことができた児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備などの事情により、十分な指導が難しい場面もあり、工夫が必要。地域交流、学校間交流は予定通り実施できないものもあったので、回数や実施時期の検討が必要。 	
	子どもたちの気持ちに寄り添った支援を行い、安心して学習に取り組むことができる環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> 事故や怪我を未然に防ぐことができるような学習環境を設定することができるよう務める。 児童の行動や表情などをよく観察するとともに、安心して気持ち伝えることができるよう、児童の気持ちに寄り添いながら支援する。 	⑱⑳㉑	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童の様子をよく観察することで、児童同士のトラブルに対応したり、事故やけがを防止することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちを伝えることが難しい児童もいるため、さらに寄り添った支援ができるように研修をしていく。 	
	ICT機器を有効活用し、教員間の情報、教材等を共有して、より効率的に業務を遂行できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> Teams等を活用し、教材の共有を図る。学年会等で、児童の様子や授業について情報を共有したり意見を出し合ったりすることで、より良い教材作りや指導力の向上を図る。 	⑨㉒	B	<ul style="list-style-type: none"> Teamsを活用し、教材や情報の共有を行い、効率よく授業を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度使用した教材を次年度以降も活用できるように整備していく。 	
小学部第4学年	子どもたちが「やってみよう」と主体的に取り組むことのできるような、授業や教材・教具の工夫、改善に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の3観点に基づいた目標を設定し、教員間及び、保護者と共通理解を図りながら、日々の支援を行う。 授業改善や評価の工夫について、適宜学年内で話し合いをする。 児童の学習意欲を高めることのできるデジタル教材を活用する。 	⑤⑥⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年内で児童の実態や必要な手立てを共有した。その結果、児童自身が気付く・実践する姿を引き出す授業を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教材のより効果的な活用方法や、授業の中での学習評価の在り方について、引き続き研修を深める必要がある。 	
	体験的な活動に取り組む中で、集団でのルールやマナーについて学び、教師や友達などの周囲の人達とより良くかかわろうとする態度を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じて、身の回りのことのできることを一つずつ増やしていけるような支援を行う 集団の大きさを工夫しながら、友達と協働的に学ぶことができる機会を多く設定できるようにする。 	①②③④	B	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習や学校間交流の事前学習で公共のマナーについて学んだことで、実際の場面でも学習内容を生かして参加することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 対人場面での適切な距離感については、今後も自立活動や道徳の学習を通して継続的に指導していく必要がある。 	
	児童一人一人の気持ちに寄り添い、それぞれの教育的ニーズを整理することで、安心して学校生活を送ることができる環境をつくるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 学年、学級での教員間の情報共有を行い、児童それぞれの支援について共通理解を図る。 教室等の環境について、日々複数の目で点検し、安全についての意識を高める。 	⑱⑳	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 外部専門家相談を活用したことで、児童の実態を細やかに把握することができ、その結果、児童が落ち着いて学習に取り組むことにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心できる環境づくりのためには、保護者との連携を日々の連絡帳などを通して今後も継続し、より丁寧に行っていく必要がある。
	ICTの利活用を積極的に進め、学年内の業務量の平準化に努める。	<ul style="list-style-type: none"> TeamsなどのICTを利用し、学年会の資料を事前に共有することで、効率的に協議することができるようにする。 教材のデータベース化を図り、授業や教材準備の時間を短縮できるようにする。 年間の学年内業務について視覚化し、教員間でフォローし合える体制をつくる。 	㉒	B	<ul style="list-style-type: none"> Teamsを活用し、授業計画等を事前に共有することで、学年内の情報伝達がスムーズになり、業務の効率化を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務量の平準化をさらに進めるために、年間の業務を視覚化し、優先順位をつけやすい環境を整える必要がある。また、想定外の業務が発生した際にも、互いにフォローし合える体制づくりを進めていく。 	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策
小学部第5学年	児童一人一人の実態に合った目標を設定し、学ぶことを楽しみ何事にも挑戦できるようなきっかけをつくれるような授業づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 適切な実態把握に基づき、児童の意欲を高められるような個に応じた具体的な目標を立て支援を行う。 今までに学んだことや経験したことを活かし、協動的な学びの場面や活動場所を設定していく。 理解を深めるために、ICT機器の効果的な活用を工夫し、授業改善に努める。 	⑤⑥⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科学習において学習進度や課題に応じた教材で目標に合った学習をすることができた。他の学習においても内容に応じてグループを編成することでクラス外の友達ともかかわり合いながら学習することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進度や観察による実態把握に加え、客観的なアセスメントを行い共通理解を図るとともに、より個に応じた学習ができるようになる。
	継続して行うことや、新たに経験することを通して、他者とのかかわりを増やし、一緒に楽しく活動できる力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 学習や生活の中で共同的に活動する場面を設け、友達と協力することの大切さを感じられるようにする。 生活年齢や発達段階に応じて適切なコミュニケーション能力を育てるために、挨拶や言葉遣い、人との距離感などについて継続的に支援を行っていく。 地域の方とのつながりを大切にして一緒に体験活動を楽しむことができるような場面を設定し、交流対象の担当者と連絡を密にして計画を立てていく。 	①②③④	B	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の場面では、基本的習慣について継続した支援を行うことで定着を図ることができた。 行事を通して学年の友達や他の学校の友達、地域の方々と協力、共同して活動する場面を設定することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や言葉遣い、人との距離感などについての仕方を検討し、学年全体で共有し生活の中で即時指導をしながら定着を図る必要がある。
	児童の様子の変化に気づき、安心・安全に学ぶことができる環境づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 事故やけがを防げるよう、学習場所の環境を整える。 児童の表情や行動の様子をよく観察し、気になる時には保護者と連携を図りながら丁寧にやりとりをしていく。 	⑱⑳	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年の職員間で児童の様子について共通理解を図ることで、連携して支援することができた。 一日の様子を見て、気になったことはすぐに保護者に連絡をして伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎の問題もあるが、教室を同じフロアにすることで、児童の教室移動や職員の連携を円滑にこなえるようにすることで、より安心・安全に学べるようにする。
	ICTを活用し、共通理解を図ったり、教材の活用や会議の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学年会資料や打ち合わせ事項などをTeamsで共有し、議題を事前に確認・共有できるようにする。 タブレット端末を使い、会議の場で記録し、時間短縮に務める。 	㉒	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業のスライドや教材などICTを活用、共有しながら学習をすることができた。 職員の連絡や学年会の記録などもTeamsを活用することでスムーズに行うことができ、時間短縮にもなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 案件によっては勤務時間内に終わることができないこともあったが、できるだけ終わらせるように事前に共有できるものや閲覧できるものは伝え、会議の内容も精選して進めていく必要がある。
小学部第6学年	一人一人の発達段階に応じた学習活動を通し、自ら取り組み、考え、学ぼうとする態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 達成感をもてるように個々の発達段階や特性に応じた課題を設定することで、「分かった、面白い」体験を繰り返すことで、主体的に取り組んだり、自己選択しながら活動したりできるようにする。 個に応じた教材・教具の工夫や学習環境を設定することにより、年間を通して段階的、継続的な学習活動を行い学習の定着を図る。 	⑤⑥⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの特性を適切にとらえるよう実態把握をすることで、一人一人の発達段階に応じた学習活動を行うことができた。 生活単元を中心に体験的な学習を多く取り入れ効果的だった。 	<ul style="list-style-type: none"> よりの確かな実態把握ができるようにアセスメント力を高め、個に適した課題を学習することができるようにする。
	学校や学級における約束やマナーを自ら守り、日常生活における身の回りのことは自分で行おうとすることで、自律する力を伸ばし、自立や社会参加にむけた主体的な態度を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 継続して支援することを通して、衛生的生活習慣や基本的な生活習慣を身に付けられるようにする。 学校生活の中で、ルールを守ったり、係活動や委員会活動などを通して自分の役割を果たしたりすることで、充実感や役割意識を育てる。 学校生活の中で、自分の思いを伝えたり、友達の思いを受け止めたりすることを通して、よりよい人間関係を築くことができるようにする。 	①②	B	<ul style="list-style-type: none"> 必要以上に言葉かけをせず、自ら気付いて動けるよう見守ることで主体的に動ける姿が多く見られた。 授業や学級において役割を果たすことができる設定ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における力を高めしていくために、今後も保護者との共通理解の方法等も含め、必要不可欠な連携を進めていくことが今後の課題である。
	児童が安心安全に過ごせる環境作りに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練、交通安全などの防災教育を行ない、児童が緊急時に安全に行動できるようにする。 体育(朝の運動)や自立活動において十分な運動量を確保することで、健康で丈夫な体づくりに取り組むことができるようにする。 児童の様子を観察し、気付いたことや知り得た情報は学年間で共有し、また保護者と話し合うなど連携を行い、児童たちが安心して学校生活を過ごせる環境作りに努める。 	⑱⑳	B	<ul style="list-style-type: none"> 防災キャンプの参加や定期避難訓練など十分な防災教育を行うことができた。 朝、一人ひとりの児童に「おはよう」と目を合わせて言うことで、その日の顔色や様子を観察することができた。 学年会で児童の情報共有ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の運動を2つのグループに分けて行ったが、グループによって運動量の確保が難しかったので、楽しく体を動かす工夫が必要。 夏の体育館の使用や体づくりの場面で環境の確保ができるともっと安全に過ごせたのではないかな。
	ICT機器の活用をして授業計画・改善の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 学年会ではTeamsを活用し、会議資料の共有やチャットを使用した連絡調整を行うことで会議時間を短縮し、学年会後に授業担当者打合せの場を設ける。 国語・算数や自立活動の教材の共有を促進する。 	㉒	B	<ul style="list-style-type: none"> 会議で検討したいことを事前に提示することや略案をTeamsでスムーズな流れづくりになっていった。 紙と時間の節約になった。 前年度に使用した授業のスライドを再利用させてもらうことで、業務の効率化を図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材の共有はお互いに所有するものが分からずあまりできていないので、Teamsの学年ファイル内に共有教材の場所を作るとよかった。
小学部・なのはな学級	個々の実態を把握し、興味・関心に沿った活動を行う中で、自分の気持ちを周りに伝える力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 五感を使った活動に繰り返し取り組んだり、スイッチ教材を使用する機会を設定したりして、自ら行おうとする気持ちを引き出す。 豊かな言語環境を心がけ、場面に応じた言葉のやり取りを教師と繰り返し行い、自分の感情表出を引き出す。 選択場面を設定し、写真や実物等分かりやすい物を提示して選びやすくする。 	⑥⑦⑧⑬	B	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい学習場面の設定を工夫したり、繰り返し学習を行い理解につなげたりすることで、主体的な感情の表出を引き出すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 周りに自分の気持ちを伝えようとするために、提示の仕方や選択させるための補助具等、個々に応じた手立てややり取り場面の工夫をさらにしていく必要がある。
	個々のできる動きに応じた活動に取り組み、自分の身体に対する意識を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の身体各部位の可動域等を共通理解し、個々の身体に関する課題に沿った活動を取り入れるとともに、体操、ストレッチを通して言葉かけをしながら身体に触れてボディイメージを育てる。 	①⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> リマックやふれあい体操を行いながら言葉かけをして、体の部位を伝える等してボディイメージにつながるようにすることで、緊張せずに働きかけを受け入れ、取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれ個々の課題に応じて取り組めるよう、活動時間の確保に努めて継続していく必要がある。
	児童にとってよりよい環境設定や障害の状態に応じた適切な支援に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、主治医、看護職員、巡回指導医、それぞれのリハビリ担当者、外部専門家(PT/OT/ST)との連携を図る。 	⑯⑰⑱	C	<ul style="list-style-type: none"> 適宜、外部専門家や主治医の助言を受け、医療機関と連携を図りながら支援することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が学習に対し、よりよく向かい合うことができるように、看護職員と教員との情報交換や意見交換を密に行っていく。
	児童の情報や教材教具のデータ等の共有を円滑にすることで、業務の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の情報・連絡等は、クラス内で毎朝短時間打合せをすることで円滑に行う。 ICT機器で作成した教材教具については、データの所在を明確にすることで共有して使えるよう効率化を図る。 学年の教員と児童の情報交換を行い、学年との交流を見通しをもって計画的に行う。 	⑨⑳	B	<ul style="list-style-type: none"> 教室用PCやタブレット端末等、教材のデータ所在を明らかにして共有して使えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年との交流に関して、学年の教員との打合せや情報交換をその都度行い、計画的に行えるようにしていく必要がある。

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策		
中学部	生徒一人一人が、これまでに積み重ねてきた経験や学びを基に努力挑戦し、より確かな力にできる授業づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 生活年齢や発達段階、障害特性など、心身の状態をふまえた、集団形成や学習形態の工夫に努める。 各教科等の指導においては、下支えとなる自立活動との関連にも着目し、生徒自身が楽しさや達成感を味わえる目標、学習内容の充実を図る。 学習の効果性を見通しながらICT機器を活用し、意欲や探求心を持続できる授業展開を図る。 	⑤⑥⑦⑧ ⑨⑱	B	<ul style="list-style-type: none"> 学部研修をとおして、中学部段階において身に付けてほしい力やそのための学びについて協議を重ね、授業づくりを行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学部段階における学習内容の検討や整理は引き続き行い、よりよい授業づくりにつなげる。また、下支えとなる自立活動と関連付けた支援も見直していく必要がある。 		
	生徒が、安心して自己表出して人とかわかり、自分の役割を担ったりと友達と協力したりする姿勢を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や教師同士が連携しながら、生徒の表出を受け止める姿勢を土台にすることで、生徒が自分の居場所を見つけ、安心して自己表出できる環境設定に努める。 生徒が周囲の人や環境と対峙する場に寄り添うことで、人とかわかることへの安心や気持ちの安定を図り、自己理解や他者理解、集団での学習や生活への活力を引き出す。 日常生活、学習全般において協働的な活動を取り入れることで、役割を担うことや協力することの大切さを実感し、挨拶や言葉遣いなどの社会性を身に付けていくことができるようにする。 	①②③④ ⑱⑳	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活全般で生徒の表出を受け止める姿勢を土台とし、教師、友達、上級下級生間の関係づくり構築に努めた。文化祭では、各学年の色が表れた模擬店を作り上げ、生徒全員が任された役割に力を発揮することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒それぞれにとっての安心や活力を見出せるよう、今後はさらに自己有用感を得られる機会や学習活動を見出していく。 	
	教員同士が、共に想像、構想する機会を通して専門性の向上に努め、生徒支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 教員同士が協働的に生徒支援に取り組むことで、連携力や信頼感を高められるようにする。 外部の専門家の意見も参考にしながら、根拠ある支援方法を探ったり、多角的な考え方や視点を取り入れたりする機会を通して、より専門的な知見や指導力、構想力を研鑽し合えるようにする。 	⑭⑮⑯⑰ ⑱⑲	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学部会では、毎月学年を超えて情報共有を図ることができた。学部研修では、学部全教員で学習支援に関する構想を協議を重ねることができ、研鑽に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学部研修における研鑽は継続しつつ、特別支援教育の支援の根拠に触れる機会を積極的に設けていく。 	
中学部第1学年	挨拶、返事、報告、態度、言葉遣いなどの基本的な生活習慣の基礎を養い、自立に向けた能力の素地を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中でその都度、基本的な生活習慣について、手本を見せながら指導してする。必要に応じてイラストや手順表などを提示したり掲示したりして意識できるようにする。 よくできたときには具体的に良かったことを称賛して成功体験を増やす。 	①②③⑤ ⑥⑦	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 実態に合った挨拶、返事、報告、態度、言葉遣いができるように継続して支援を行うことで、基礎を養い育むことができ、自分から挨拶をする生徒が増え、日常生活の中で定着してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実態差のあるグループの授業ではなるべく生徒の待ち時間を減らせるように工夫していきたい。 生徒の実態に応じた人との適切なかわり方の支援を工夫していきたい。 	
	目標達成に向けて初めてのことに積極的に挑戦し、日々の生活に生かせる基礎的な学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップから始め徐々に難易度を上げていき、生徒の「分かった」「できた」を増やしていき、自信をもってできることを増やしていく。 興味・関心のあることを題材に取り上げたり体験的な活動したりして、生徒の興味・関心を高め、「やりたい」「やってみよう」の気持ちを引き出せるようにする。 実態に応じた教材・教具を用意したりICTを効果的に活用する。 	②③④⑤ ⑥⑨	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 支援や指導法の工夫を行うことで、生徒が自分からやろうとすることが増えた。 初めての役割、当番活動について、具体的に例を示すとともに、段階的に支援することで一人で取り組めるようになってきた。 着替えなどの日常生活の指導では、日々の学校生活の中で、スモールステップから取り組んできたことで、達成できたことも多くあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面に応じた言葉遣いや会話、コミュニケーション「手伝いますか?」「どうしたらいいですか?」等聞けるように支援したい。また、自分から依頼、協力要請ができるように支援していきたい。 縦割りグループ活動時の連携がとりやすいように、単元前に打ち合わせをもつなど今後も計画的に準備を行っていく。 	
	生活年齢に応じた人との適切なかわり方の理解や、思いやりや助け合いの気持ちを育み、コミュニケーション能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> その都度、適切なかわり方について手本を見せたりどのような行動がいいかを助言したりしながら確認する。また、生徒同士がかかわる場面を設定して様々な経験ができるようにする。 良いかわり方ができたときには具体的に何がよかったかを称賛し成功体験を増やしてコミュニケーション能力の向上を図る。 	①②③⑤ ⑥⑦⑱	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士がかかわる場面や協力する場面が増えた。困っている生徒がいるときには、言葉をかけて協力する生徒の姿も見られた。 友達とのかかわり方の具体例を示したり男女のかかわり方について、スライドを視聴したりすることで、コミュニケーションの基礎を育むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立と生活年齢に応じた人とのかわり方を身に付けることができるような支援を今後も継続していきたい。そして、引き続き、教員間の報告、連絡、相談を密に行いながら、各研修を通じて指導力の向上に努めていきたい。 	
	教員間での報告・連絡・相談・確認や様々な情報の共有、連携・協働を密に行い、指導力の向上、課題の早期対応に努める。	<ul style="list-style-type: none"> チームスを活用して報告・連絡・相談・確認を密に行う。 学年会等で生徒や保護者対応などについて話し合う場を設け、教員間の共通理解を図ったりより良い対応策を出せるようにする。 教員同士のコミュニケーションを密にとり連携・協働を図れるようにする。 	⑱⑲⑳㉑	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の出席確認、安否確認、授業連絡などTeams、学年会で共有を図り学年で対応することができた。また、Teamsのチャットを活用することで、報告連絡相談を密に行うことができ、授業変更等があるときなどにも早めに対応することができた。また、課題の早期対応に努めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員を介して生徒同士のコミュニケーションやかわりが行われる場面がまだまだ多い。生徒の実態に応じて、自分から相手に伝えるようにする力を伸ばしていく必要性を感じた。 	
中学部第2学年	生活年齢を意識した基本的な生活習慣の確立を図り、挨拶、言葉遣い、健康、衛生、安全を自ら意識した行動や態度の育成を図る。	日常生活の指導や各教科の指導において、基本的な生活習慣の自立に向けた取り組みを多く設定し、自ら考えたり行動したりする場面を増やすようにする。また、家庭との連携を図り、系統的な取り組みで支援をできるようにする。	①②③⑤ ⑦	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全般で、挨拶、言葉遣い、身だしなみ、衛生面の指導に力を入れ、日常的に生徒自身に意識させるよう努めたことで、定着が図れてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 思春期を迎え、人との距離感や異性との関係性などの課題が見え始めた。体の性徴の意識も含め、次年度は計画的に指導していきたい。 	
	生徒相互がともに尊重したり協力したりしながら、自主的に行動できる態度を養う。	個に応じたコミュニケーション手段の確立を図るとともに、生徒同士の話し合い活動や集団活動などの協働的な取り組みの中で、協調性や仲間意識を育むようにする。	②③⑤⑥ ⑦⑩	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動、グループ活動、代表者活動など、学習内容によって学習形態を変えた。それぞれの活動で話し合いや関りを深め、友達との協調性がより高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が仲介することでの協調性は高まったが、生徒が自主的に話し合うことや積極的に関係性を深めることは未熟な部分があるので、次年度は改善していきたい。
	生徒一人一人の実態や課題を的確に把握し、課題改善に向けた支援や指導の工夫と充実を図る。	一人一人の障害特性や発達段階の共通理解に努め、根拠ある支援や指導を行う。また、個々の実態に合わせた教材や支援方法の工夫に努めるようにする。	①②⑦⑧ ⑨⑭⑮⑯	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 国語・数学は能力別のグループで実態に合わせて教材や支援方法を工夫して指導したことで理解力が高まった。自立活動は個々の課題に応じたグループを編成し、課題改善に向けた取り組みを継続したことで、自主的に課題を改善しようとする意識が出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動では、中心的な課題の改善に向けて、より学年全体での共通理解が必要であるため、定期的に情報交換を行いながら、日常的に指導を継続できるようにする必要がある。

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策
中学部第3学年	主体的な課題解決や自己目標の達成に向けて、学ぶ楽しみを感じながら挑戦する力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動や動きを伴う活動を取り入れて、生徒のワクワク感を高める授業を展開する。 3観点を踏まえた授業改善により、生徒の実態に合ったわかる授業を展開する。 キャリアパスポートやワークシートの活用により、自己目標の実現に向けた進路指導を行う。 	②③⑤⑧ ⑨⑭⑮⑯	A	<ul style="list-style-type: none"> 見通し提示や役割の明確化により、主体的に学習へ向かう場面が増え、成功体験を通して「できた」「もっとやりたい」という姿が多く見られた。学ぶ楽しさを感じながら挑戦する態度が育ちつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲は高まってきたが、活動の難易度が高まるとすぐ諦めてしまう生徒や支援を待ってしまう生徒が見られ、主体的な取り組みの差が大きい。
	自分から進んで人にかかわり、周りの人のために力を発揮しようとする態度を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 他者への優しさの基礎となる自己肯定感、自己有用感を育むために、肯定的な言葉かけをし、ラポールの形成に努める。また、自立活動でSSTを取り入れたり、道徳の授業を充実させたりすることで一人一人のコミュニケーション能力を高める。 	①②⑤⑦ ⑧⑮⑰	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年活動や日常の関わりを通して、自分から人とかかわろうとする姿が増えた。あいさつや依頼、友だちの手伝いなど、周囲のために行動しようとする様子が見られ、協力する態度が育ちつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や周囲の人に自分から関わろうとする姿は増えてきたが、相手や場面を限定してしまい、安定して関われない生徒もいる。
	教員間の連絡を密にし、情報を共有するとともに、教材データベースを活用して、指導力と専門性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 共通理解が必要な伝達事項や教材をTeams等で周知、共有することで、効率的な時間の運用及び業務のスリム化を図る。 	⑩⑬⑱⑲ ⑳	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年内でこまめに情報共有を行い、生徒理解や支援方法の一致を図った。また、教材データベースを活用することで、教材研究が効率化し、指導の質と専門性の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ、言葉かけ、依頼の仕方など、「人とのかわり方」の具体的なスキルを視覚的に示し、段階的に練習できる場面を増やす。
中学部・なのはな学級	個々の実態を把握し、興味・関心に沿った活動を行う中で、自分の感情を周りに伝える力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 五感を使った活動に繰り返し取り組んだり、スイッチ教材を使用する機会を設定したりして、自ら行おうとする気持ちを引き出す。 豊かな言語環境を心がけ、表情や発声等で意思を表出した際は言語化してフィードバックし、表出する喜びを味わえるようにする。 選択場面を設定し、写真や実物等分かりやすい物を提示して選びやすくする。 	⑥⑦⑧⑮	B	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい学習場面の設定を工夫したり、繰り返し学習を行い理解につなげたりすることで、主体的な感情の表出を引き出し、喜びを味わえるようにすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 周りに自分の気持ちを伝えようとするために、提示の仕方や選択させるための補助具等、個々に応じた手立てややり取り場面の工夫をさらにしていく必要がある。
	個々のできる動きに応じた活動に取り組み、自分の身体に対する意識を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の身体各部位の可動域等を共通理解し、個々の身体に関する課題に沿った活動を取り入れるとともに、体操、ストレッチを通して言葉かけをしながら身体に触れてボディイメージを育てる。 	①⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> リマックやふれあい体操を行いながら言葉かけをして、体の部位を伝える等してボディイメージにつながるようにすることで、緊張せずに働きかけを受け入れ、取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれ個々の課題に応じて取り組めるよう、活動時間の確保に努めて継続していく必要がある。
	生徒にとってよりよい環境設定や障害の状態に応じた適切な支援に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、主治医、看護職員、巡回指導医、それぞれのリハビリ担当者、外部専門家(PT/OT/ST)との連携を図る。 	⑩⑱⑲	C	<ul style="list-style-type: none"> 適宜、外部専門家や主治医の助言を受け、医療機関と連携を図りながら支援することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が学習に対し、よりよく向かい合うことができるように、看護職員と教員との情報交換や意見交換を密に行っていく。
	生徒の情報や教材教具のデータ等の共有を円滑にすることで、業務の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の情報・連絡等は、クラス内で毎朝短時間打合せをすることで円滑に行う。 ICT機器で作成した教材教具については、データの所在を明確にすることで共有して使えるよう効率化を図る。 学年の教員と生徒の情報交換を行い、学年との交流を見通しをもって計画的に行う。 	⑨⑳	B	<ul style="list-style-type: none"> 教室用PCやタブレット端末等、教材のデータ所在を明らかにして共有して使えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年との交流に関して、学年の教員との打合せや情報交換をその都度行い、計画的に行えるようにしていく必要がある。

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策
高等部	卒業後の生活や進路を見据え、生徒一人ひとりの自立像に向けた授業づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の指導やアセスメントを通して、生徒一人ひとりの自立のイメージを教員間で共有し、段階的な学習計画を立てる。 生活、進路、社会参加を一体とした実践的な学習活動展開に努める。 	①②③⑧⑮	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの自立に向けた課題や強みを整理したことで、実生活につながる授業を展開することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活、進路、社会参加を一体とした実践的な学習について、単発的な取組にとどまらず、年間を通じた系統性・段階性を明確にする。
	自己理解・自己選択・自己調整力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な活動を引き出し、自己肯定感を高められるような指導方法や評価の仕方を工夫する。 生活や学習の中で選択・表現し、他者と関わりながら自己調整力を高め、自立に向けて主体的に行動できる力を養う。 	⑤⑥⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な活動から自分の考えで選択したり感情や行動を調整したりしようとする力が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己選択や自己調整力について実生活につながる形で積み重ねていくための指導方法・評価・環境設定の整理と共有が今後の課題である。
	自分も相手も大切にしている行動や安全に行動できる力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間の縦と横のつながりを生かした学習活動を有効的に設け、自己理解・他者理解の相互作用を図る。 防災、防犯、交通安全の学習や作業学習や校外活動でも、安全確認やルールを意識して行動する力の育成に努める。 	⑱⑳	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間の関わりを生かした活動の中で、安全や相手への配慮を意識した具体的な行動が見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年・クラス・コースを超えた活動を通して、自己理解・他者理解が相互に深まる学習機会を継続的に設ける。
	福祉や就労支援等の関係機関と連携し、生徒の実態に応じた支援体制を構築・活用する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の相談支援専門員やサービス管理責任者等との顔の見える関係づくりを行う。 地域の福祉サービス、就労支援機関などの情報交換を行う。 必要に応じて関係機関とケース検討会を行い、支援内容の調整を行う。 	⑩⑯⑱	A	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活に向け、生徒一人ひとりの実態や課題を共通理解した上で支援を検討できる関係性が構築された。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携の定着に向けて、必要に応じたケース検討会を通して、卒業後の生活を見据えた一貫した支援が行える体制づくりを進める。
職業自立	将来の豊かな生活の実現に向けて、キャリア教育の一層の充実を図り、勤労の意義についての理解を深める。また、職業生活に必要な知識や技能及び態度を身に付けるとともに、職業生活における自己の能力や適性についての理解と働く意欲を高める力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 職業生活や日常生活に関する基礎的な知識や技能、態度の習得について、各教科を通して重点的に取り組む。また、提示された目標や課題に対して自ら考え、判断し、自分の意見や考えを他者と伝え合うことで解決方法を見出す能力を育む。更に、実態に応じたグルーピングを設定することで、主体的かつ協働的に学ぶ態度の育成を図る。 一般就労や福祉的就労に必要な基礎的な知識や技能、態度を育てるとともに、卒業後の進路選択に向けて進路部との連携を図りながら実習の充実を図る。また、実習での課題を明確にし、教育活動全般を通してスモールステップの原理から達成しやすい目標を設定し段階的な課題の改善に向けての取り組みを行う。 	⑤⑥⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> 職業の学習や校内・現場実習の経験を通して、働くための目的や卒業後の生活についてイメージをつくることのできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 他学年との連携から協力する態度や達成感を味わうことができたが、状況に応じてリーダーシップをとったり、グループをまとめたりするなど各々に役割を与えることで、責任感を身に付けられるようにする。
	異学年同士の関わりを通して、共に認め合い、協力する態度を育んだり、良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション力を高めたりするとともに、活動の中で自己選択や意志決定するための自律する力、役割を担う責任感や行動力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習において、生徒の自己有用感を高めるために、生徒の実態に応じた適材適所の作業班編成を行い、活動において目標設定から反省、改善を行い、フィードバックして課題改善ができるようにする。更に、異学年との学び合いを設け、関わり合いの中からお互いを認め、自己肯定感を高められるように指導する。サービス班における受注業務においては、責任をもって完遂する。 特別活動、学級活動、学年活動等とおして、生徒同士の話し合いの場を計画的に設定し、課題解決に向けて、生徒同士が意見を交換する場を設ける。また、各学年の生徒がそれぞれの役割を理解して実践できるように、学年間で系統性をもった授業計画や適切な課題設定を行ったり、情報機器を効果的に扱ったりする。 	①②③	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内実習や現場実習を経験することで、自分の課題や目標に気付き、改善することで、一人一人の成長に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 現場実習の経験から目標や課題に対して、短期的なものや長期的なものを設定し評価をしていくことで生徒の成長に繋げる。
	対話を通して、社会生活に必要な知識及び望ましい態度を生徒同士で気付き、学び合う機会をもち、その中から望ましい生活習慣の基盤作りの力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に必要な「挨拶」「返事」「報告」「連絡」「相談」など、基礎的なコミュニケーション能力を育てられるよう、作業学習・職業科の時間にその機会を計画的に設定する。また、作業製品販売計画において、コースとして販売機会を計画し実施する。上級生から下級生に対して、作業技術や態度面に関する助言の場を設定し、生徒間でお互いに伝え合う基礎的なコミュニケーション能力の向上を図る。 トレーニングを通して、5分間以上一定のペースで走り続けられる体力の向上やダンスなどの有酸素運動を行う体力の向上を図る。自立活動や道徳、社会や理科の教科では、話し合いやディベート、比較検討などお互いの意見を尊重し、筋道を立てて意見を伝え、交換するための基礎的なコミュニケーション能力を高め、日常生活全般で必要とされる情報交換や調整能力の基礎を養う。 	⑥⑫	B	<ul style="list-style-type: none"> 各作業班での学習において、先輩や後輩と一緒に活動する体験や経験を積み上げていくことで、できたときの達成感や協力する気持ちを育てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 働くことや卒業後の生活についての理解は個人差が大きいため、日常生活に近い例を挙げたり、就職してからの生活スタイルを考えられたりできる一人一人の理解に繋がる学習を考えていく。
	作業担当者会・学年コース代表者会議を定期的に設け、事前に会議に必要な資料や情報の共有を行ったり、クラウド機能を活用しながら授業に関する打合せを実施したりすることで、会議や業務の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 協議・検討事項の内容・目的を明確にするために会議を分けて設定したり、タブレット端末での資料の共有、ペーパーレスの実施で業務の効率化を図る。担当者間の打ち合わせを複数回設けることで、意見交換などの場を増やすように設定する。会議進行に際しては、会議の終了時間を明確に提示したり協議事項の優先順位・範囲を決めたりする。また、会議時間を1時間以内とする。 	①③	B	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動や学年活動を通して、テーマに沿った話し合いの場を設定することで、自分の意見を伝えたり相手の意見に関心をもったりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を伝えることに苦手意識のある生徒も少なくないため、意見交換の場をより多く設定した学習内容を取り入れていく。
			⑤⑥⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習における製品づくりにおいては、いな穂祭に向けての販売を目標としながら、各班が先輩や後輩と協力しながら意欲的に取り組むことができた。 週に3回程度、朝のトレーニングを実施したことで体力の向上に繋げることができた。また、座学における学習においても話し合い活動を取り入れ、コミュニケーション力の向上ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> いな穂祭などのように製品販売ができる、出品できる場を設定するだけでなく、販売した成果を具体的に伝えていくことで、より製品づくりへの意欲や向上心が高められるように進めていく。 体力の向上を図るトレーニングは、今後も継続的に行っていくことで向上だけでなく維持することにも繋げていく。また、スモールステップの目標を設定しながら、達成感や向上心を持てるようにする。
			②		<ul style="list-style-type: none"> 会議において、コースでの課題等を検討する場を設定したことで、解決に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議の時間は1時間以内を継続していく。また、検討する議題には十分時間を設けるなど、進行時間等の配分を明確に設定することで、有意義な意見交換ができるようにする。

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	今年度の成果	課題と次年度への改善策	
生活自立	卒業後の生活をイメージし、働く上で必要な基礎的・基本的な知識・技能、態度の育成と働き続ける意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・現場実習や作業学習などの体験的活動をとおして、自分の適性や課題について振り返り、働くために必要な力を学ぶ機会を設定する。 ・学習形態を学年コースやコース縦割り等、学習の内容に応じて柔軟にグルーピングし、個に応じた支援を効果的にやっていく 	③⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習を3グループにし、教員を増やしたり作業ごとにグループ分けしたりしたことで適性を見極め、個に合った課題を提供することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ間の教員の連携を深め、年度初めに一人一人の課題を明らかにし、課題に向き合っていくことができるようにする。 	
	自分自身のことを理解していく中で、前向きに取り組む態度を養っていき、自立と社会参加に向けて必要な基礎・基本を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自発的・自主的に選択し決定していく過程を尊重しつつ、集団の中で自分の役割を果たすことができるように支援していく。 	②⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事について調べる学習の時間を設け、自分や友達の興味の違いに気付き、役割や係について向き合えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個のニーズに応えるべく、3コースと連携し作業など部分的に参加できるようにしていく。
	現在困っていることや将来的に必要なになっていくことなどを学校や関係機関を利用しながら相談したり解決できたりする力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が抱える問題に耳を傾け、真摯に対応しつつ、地域の福祉サービスや医療機関、就労支援機関などの情報交換を含めたケース検討会を必要に応じて行い、支援内容を分担調整していく。 	⑬⑱	B		<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関とのケース会議をもち、障害や病気についての知識を広げ、支援について話し合うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に出るために必要なことを考える学習について、学習内容や授業構成などを今後も検討していく。
	コース会の効率化と教材やデータの共有化を行い、業務の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・コース会で議題にあげるべき内容と、Teams等の回覧や周知で共通理解を図れるものを精選し、会議時間の短縮を図ったり、作成した教材教具の共有を行ったりすることで、効率的且つ業務のスリム化を図る。 	⑩⑰⑳	B		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じた会議を行ったことで、個人の時間が増え、業務をスムーズに行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議の内容等を周知し、共通理解した上で支援していくとともに、個人情報の漏洩には十分に注意していく。
生活基礎	基本的生活習慣である、あいさつ、時間の管理を卒業後を見据えて基礎・基本を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後に必要とされる課題等を知り、日常生活の中で必要な力を身につけられるように支援をする。 ・コース制での割の利点を生かし、柔軟な編成を行い個に応じた支援を行う。 	①⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先での挙がった課題を持ち帰り、学校生活の中において、その課題を含めたさまざまなことに対し、授業の中で身につけ、力をつけることができた。 ・縦割りの利点を生かし単元によって集中して授業を組みかえて行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の課題を教師がよりの確に理解・把握し、教員間で共通理解をし、一貫・統一した支援をしていく必要がある。 ・年間指導計画に沿って学習を行うことが基本であるが変更する場合もコースの中で知ったりと話し合いをすることが必要である。 	
	個人の個性や特徴を理解して探究心を高め、社会へ向ける可能性を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を把握することで個別に必要な課題を提示し、卒業後に向けた支援をする。 	②⑤⑥⑬	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に指導をする機会も多いため生徒の実態を理解することで個々の方向性を間違えることなく指導をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導を行うことはとても大事な内容の一つではあるが、集団生活という部分も意識するために、周囲との情報交換を積極的に行うことも大事にしていきたい。
	安心して学校生活を送ることのできる居場所づくりや信頼関係の構築を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に学校生活が送れるように保護者との信頼関係をつくり、情報提供等、共通理解ができる基盤をつくる。 	⑩⑱	B		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と直接話をする機会が減ってしまった中、連絡帳や面談等で情報提供して頂くことでお互いの思いを共通することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接保護者との話をする機会も今後大切にし、情報等に間違いがないように複数で確認していく必要がある。
	ICT機器を活用し、業務を効率的にするとともにデータを管理し共有できる環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・コース会等事前に資料添付し理解を図り、会議時間の短縮や事前に考える時間をもち会議では端的にまとめられ効率をあげる。 	⑨⑳	B		<ul style="list-style-type: none"> ・事前にTeamsにあげることで会議内容を理解し当日の時間短縮や信仰の効率化につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsに流す内容の重要度を整理し基本、日中はTeamsを見ないでも大丈夫な状態にする必要がある。
高等部・なのはな学級	個々の実態を把握し、興味・関心に沿った活動を行う中で、自分の感情や意思を周りに伝える力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を使った活動に繰り返し取り組んだり、スイッチ教材を使用する機会を設定したりして、自ら行おうとする気持ちを引き出す。 ・豊かな言語環境を心がけ、表情や発声等で意思を表出した際は言語化してフィードバックし、表出する喜びを味わえるようにする。 ・選択場面を設定し、写真や実物等分かりやすい物を提示して選びやすくする。 	⑥⑦⑧⑬	B	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい学習場面の設定を工夫したり、繰り返し学習を行い理解につながりやすくなることで、主体的な感情の表出を引き出し、喜びを味わえるようにすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りに自分の気持ちを伝えようとするために、提示の仕方や選択させるための補助具等、個々に応じた手立てややり取り場面の工夫をさらにしていく必要がある。 	
	個々のできる動きに応じた活動に取り組み、自分の身体に対する意識を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の身体各部位の可動域等を共通理解し、個々の身体に関する課題に沿った活動を取り入れるとともに、体操、ストレッチを通して言葉かけをしながら身体に触れてボディイメージを育てる。 	①⑤	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・リマックやふれあい体操を行いながら言葉かけをして、体の部位を伝える等してボディイメージにつながるようすることで、緊張せずに働きかけを受け入れ、取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ個々の課題に応じて取り組めるよう、活動時間の確保に努めて継続していく必要がある。
	生徒にとってよりよい環境設定や障害の状態に応じた適切な支援に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、主治医、看護職員、巡回指導医、それぞれのリハビリ担当者、外部専門家(PT/OT/ST)、福祉の関係機関との連携を図る。 	②⑬⑱⑲	C		<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、外部専門家や主治医の助言を受け、医療機関と連携を図りながら支援することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が学習に対し、よりよく向かい合うことができるように、看護職員と教員との情報交換や意見交換を密に行っていく。
	生徒の情報や教材教具のデータ等の共有を円滑にすることで、業務の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の情報・連絡等は、クラス内で毎朝短時間打合せをすることで円滑に行う。 ・ICT機器で作成した教材教具については、データの所在を明確にすることで共有して使えるよう効率化を図る。 ・学年の教員と生徒の情報交換を行い、学年との交流を見通しをもって計画的に行う。 	⑨⑳	B		<ul style="list-style-type: none"> ・教室用PCやタブレット端末等、教材のデータ所在を明らかにして共有して使えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年との交流に関して、学年の教員との打合せや情報交換をその都度行い、計画的に行えるようにしていく必要がある。